

西条市学校適正規模・適正配置等審議会（第7回）議事録

日時：令和7年1月22日（水） 14時30分から15時25分まで

場所：庁舎本館5階大会議室

出席委員：16名 ※欠席委員4名

- 1 開会
- 2 議題

(1) 答申書（案）について

資料【答申書（案）】を説明

- 3 意見交換

◆会長

先ほど答申案の説明があったが、最後の会議なので、お1人ずつ一言ご意見いただけたらと思う。全員に発言していただきたい。

■委員

過去6回で様々な角度から地域の状況を説明され、十分理解できたのではないかと思います。しかし、地域の中で活動する者としては、これで賛成ですと中々言い難いものがあり、やはり、学校がなくなったことによって、自治会活動がどうなるのかを考えると非常に心配である。その反面、子どもがこれだけ将来に激減していく中で、学校運営を考えると、一定の規模も必要なのかなと思っており、正直悩ましいところである。役所と地域、そして保護者の方々等が十分話し合いをして、納得のいくような形で進めていくしかないと思う。悩ましいということで、こういう意見とさせていただきたい。

■委員

最後に一言ということであるが、はっきり言って、丹原地域は 全体的に少子高齢化が進んでおり、子どもの数は激減している。ここでも、学校を残して欲しいという地元の声は間違いなくあり、ある程度の年齢の方は納得することはないと思う。しかし、子どもの教育、今後の環境等を考えれば、これは致し方ないということで、それなりの納得は得られるのではないか。今後何年間で、ここで示されたような生徒数が毎年入ってくるようであれば、そういう見込みがあれば、反対論も出せるだろうが、見込みがないのに感情で反論するのであれば、これは親や地域のエゴではないか。パブリックコメントや地域での説明会、ここでは正確な数字も必要だが、こういった傾向で、これは致し方ないのだという説明をしていただきたい。変に飾ったような説明では、丹原地域の人は、市長が変わり議員が変われば、決定も変わるのではないかという考えを持っている人が非常に多い。そうではないのだということをはっきりと示すためにも、感情ではなく数字などで、現状や将来的な展望をしっかりと説明した上で計画を進めていただきたい。

■委員

石根小学校区の連合自治会長をしているため、どうしても石根小学校の今後のあり方を中心に考えてしまうが、石根小学校は今年 150 周年を迎え連綿と続いてきた長い歴史がある。この計画では、近い将来、統廃合の対象になっており、非常に残念に思っている。やはり、小学校がなくなると地域が寂れていくのは目に見えているので、どうしても学校が無くならないようにとは考えるが、一方、学校の適正化という観点からすると、時代の流れというか、やむを得ないこととは思っている。であるから、悪あがきではないが、少しでも統廃合を先に延ばして欲しいと個人的には思っている。この答申については、今までの審議をまとめるとういう形になるだろうと賛成する。また、審議会での意見についても、付帯意見の中に全て網羅されていると思う。

■委員

この答申に関しては賛成であるが、やはり 西条市 PTA 連合会で話をしても、規模適正化をする地域としない地域の温度差が非常に激しく、統廃合になってない地域の保護者に関しては全く関心がないような状況であった。PTA 連合会としても、少し進め方が悪かったのかなと反省する点はあるが、如何にして人に伝えていくのかという部分は、非常に大切だなと感じた。この統廃合が何のために行われるかという部分を念頭に置いていただき、強く述べてもらうということが大事なのではないかと感じた。

■委員

答申については、過去 6 回の審議内容を盛り込んでおり、賛成する。昨年 6 月に審議会が始まった時、保護者としての立場と地域住民としての立場で相反する思いがあって、自身の中で強い葛藤もあった。ただ、住んでいる庄内地域を見ても、少子化の流れは想定を越えて進んでおり、今後非常に加速するのではないかと、そのことは、資料からも強く認識させられた。未来への不安というのか、何か得体の知れない、将来どうになってしまうのかというものが、保護者や地域の方を覆っているような気がする。勝手な推測であるが、その不安などが、昨年末の市長選挙で大きく市政が変わったということにもつながった気がしている。私自身も審議会が始まった当時は、この適正規模・適正配置の決断が、自分の住む地域が無くなる引き金を引いてしまう恐怖感に少し襲われたが、未来の不安を取り除く方法というのは、決して現状を維持していくことではないことも、審議の中で皆さんの話を聞きながら感じた。特に、今回の審議を通して、小中一貫校や小規模特認校といった未来への希望を抱ける内容の審議もあり、子どもたちのことを考えた時に、より良い適正規模・適正配置がなされ、未来の子ども達により良い教育、教育環境を約束するものだと強く思った。今回の答申が、未来への不安を無くすものであってほしいと思う。また、小規模な学校の子供達、あるいは親達も、大きいものに飲まれてしまう不安があり、この未来への不安にもなっているので、統合にあたってはこの点も配慮いただきたい。25 年後に、あの時この統合を決断して良かったと、市民の皆さん、保護者、子ども達も言えるような未来を望んでおり、今回の答申がそのように活かされるよう切に願っている。

■委員

この答申には賛成である。付帯意見の中にもある通り、小規模校等のことも踏まえ、地元地域との話し合いも十分に行いながら、せつかく動き出したのであるから、子ども達の環境がより良くなるように、止まらず動いていっていただきたい。この審議会が始まった当初は、本当に不安の方が大きかったが、様々な意見を聞きながら、何事にもデメリット、メリットはあると思うが、デメリットだけに目を向けず、そこをどうにか、地域、家庭、学校と協力しながら埋めていければ良いと思った。

■委員

答申の内容と付帯意見等を確認し賛成である。付帯意見にもいろいろ挙げているが、そのデメリットというのは、何かをやると、結果として必ず出てくるものであると思っており、それを1つずつでも潰して行って、子ども達にデメリットがあまり影響しないよう進めてほしい。もう1つは、やはり、柔軟な考え方をしていただきたい。私自身は、適正規模にかかる地域が生活圏ではないが、やはり、そこでもどんどん、子どもだけではなく大人も含め、少子高齢化が進行している。最終的な形というのは、ここでは25年の計画であるが、30年、40年と見ていくと、もっとすごいことになるではないか。西条市は、本当に子どもの数がどれぐらい減るのか、今後どう動いていくのかが気になっており、適宜見直しながら、また新たな考え方を出して、子ども達がより良い環境で学べるようにしていければと思う。

■委員

答申と適正規模・適正配置の方針案等については賛成である。答申書の文中にもあるように、「全ての子ども達が生き生きと学校生活を送ることができるよう」、本当にこの言葉に尽きると見ていた。今後、大人はいろいろな事情を言ってくると思うが、子どもだけを主体に考えてほしいとは言わないまでも、子どもが置いてきぼりにならないよう、大人のいろいろな事情に巻き込まれないよう、6月から進めてきたこの審議会での議論が前に進んでいくよう願っている。

■委員

子ども達が一番大切かなと思うので、未来の子ども達が笑顔で登校できる、そして西条市の子ども達が輝けるようなところを、まずは重視していただき、地域の皆さんや関係者と協議の上、前に進めていただきたい。

■委員

私は仕事上、まず、1年前に公立保育園、公立幼稚園の統廃合の話し合いが行われ、とうとう小学校も始まったかなという感じで今回参加した。それと同時に、1年前に、この地域別適正化計画案にある、モデル校として神戸小学校が公民館との複合化を図る計画にも関わった。その当時、小学校のPTA役員をしており、公民館と小学校の複合化を市から提案され、それを飲むか飲まないか意見の集約を行った。PTAとしては、この規模適正化の統廃合の対象になるのは間違いないという話をして、公民館との複合化を推進することとした。神戸の意見を集約するのに、それでも、ものすごく反対があった。PTAは何回か説明会を開いて意

見は統一できたが、地域の住民達とすごく意見の違いがあり、最後は、若い世代のために、子ども達のために、小学校が残る可能性が上がることに賭けて推進することになった。したがって、各小学校の統廃合、規模適正化で、そこが無くなるという住民説明会はものすごく大変なのは想像できる。市の方、また地域の方、本当に大変な労力を使うと思うが、丁寧に説明して、結局、最後は子ども達のために進めていただきたい。同時に、家庭にも選択肢を持たせてあげたいので、やはり不登校の問題がある。私の子どもは中学生になって、高校受験も控えているが、不登校がものすごく多い。そういう子ども達のために、第3の居場所事業というのを日本財団がやっていると思うが、そういう事業も西条市として考えていただければ、もっと市内の全ての子ども達の教育環境が良くなるではないか。この答申内容については賛成である。

■委員

大事であると同時に重たい議論と思うし、そのように受け止めて、何が1番良いのかはすぐにはわからない。先ほどもあったが、不安は伴うが、その不安を希望にどうやって繋げていくのかということになる。学校になかなか行き難いという子どもが増えていることも事実であるし、コロナの影響というか、もう少し上の年代の方達が、人と人との関わり作りがうまくいかないなど、そういうことも毎日のように話を聞く。人口が減って行って、何もせずに、その通りになってしまうといけないので、今回議論したように、1つの具体的な案に向かって歩み出す。ただ、それが本当にそれでふさわしいのかどうか、動き始めると元に戻せないところもあると思う。答申書にも「必要な見直し等を図るなど、将来的な実情にも即した、子どもたちのための教育環境の充実に一層努められたい」とあり、やはり柔軟さについても十分に配慮しながら、その状況に合わせて進めていただきたい。この答申内容に関しては賛成である。最後に、他の地域、市町村との情報交換等も密にしながら、何が子ども達にとって、何が私たちの将来にとって一番良いのかということも、これからも一緒に考えていければと思う。

■委員

この答申内容には賛成である。今後、この答申書を教育委員会に提出して、次のステップに進んでいくと思うが、その1つ1つのステップとか、現在の審議内容等の発信に努めていただきたい。学校現場でも、令和4年にアンケートがあったので、適正規模や適正配置についての検討が始まっていると教職員は把握していても、具体的にどこどこが対象になって、何年後にどうなるということはあまり知らない人が多いのが現状でないか。この審議会の審議過程も西条市の教育委員会のホームページでは公開されているが、すごく関心があってそこを見に行く人でないと見ないのが現状で、広く審議状況が行き渡るような工夫をしていただきたい。

■委員

この答申内容に賛成である。今までの話し合いの過程や話し合った内容もしっかり含まれているので、適正化を図る上で、この答申を基に、これから先を考えていただきたい。ここに示されている期間や方法も具体的なものがあるので、先ほどもあったように、広報に努め

ることも大事と思う。最初の会議でも発言したが、小規模な学校だと何もできないということではなく、そのデメリット、メリットという話も出たが、小さいからこそできることもある。僻地での教職を経験しているが、工夫次第で教育の中身は変えることができるので、そういうことも考慮しつつ進めていただきたい。

■委員

子ども達に青春をきちんと提供してあげられることが何よりである。青春とは何かとすると、言い争いをしたり、誰かを好きになったり、そういうことを回数繰り返しながら、より人間らしくなっていくことが、育っていく場だろうと思うので、そういう場を保証することがまず一番と考える。それから、再編して1つになっていく学校については、良かったなどというのが目に見えないといけないと思っていて、例えば、新しい校舎になって便利になった、車椅子の子もエレベーターがあるから大丈夫だよ、進級して行って2年生から3年生になったら1つ上の階まで行けるよ、足が悪いから、車椅子だからずっと1階の教室じゃないといけないっていうわけじゃないよなど、通学もバスで通うことになれば、安全な登下校が保証される。今の児童クラブは、子どもを預けて18時まで迎えに来なかったら、子どもが外で待っていて、担当の先生1人で18時5分になったらイライラしているという、当然勤務は18時までなので、そういうことになるが、広域になるので、もう少し時間を伸ばして、19時ぐらいまでにしてくれたら買い物をして、子どもを迎えに行ける、保護者にも優しいことができるとか、そういう行政サービスの部分も含めて、学校が1つになって、子どもも良かったと、あの地域の人が送り出してくれて良かったと言える新しい形にすべきと思う。そのためには、どこかの学校にくっつけたら良いという発想ではなく、1つにしていくために、どこに学校を置いたら良いのかを含めてしっかりと考えるべきだと思う。そういう大胆なことが必要であって、例えば、丹原で1つにするなら、真ん中は、田野ぐらいで、丹原小学校にすると、少しこちらに寄り過ぎるのではないかな。そういう大胆なアイデアやしっかりとした考えを持って、子どもたちのために、どこに学校を置けば適切なのか、最適なのかを考えた学校作りを、これから10年、20年先を見据えて進めていただきたい。

■委員

この答申内容で良いと思う。今まで、多面的に検討してきた出た答えであるから、是非とも、より良いものにしていただきたい。具体的にこの内容を進めていくようになって、やろうとしていること、進めようとしていることが子ども達にとって本当に良いことなのかどうかを常に基準におき、考えて進むという基本路線は外さないでいただきたい。今回のこの適正規模・適正配置を進め、学校数が減るということは、西条市の教員数が減るということである。そして、学校関係の雇用が減るということにもなり、人が減る、勢いなくなるとい、人的な課題が当然出てくる。そういう課題も1つ1つ、やはり丁寧に対応する必要があり、少し先を見た進め方をこれからも是非お願いしたい。本当にこれからが大変だと思う。これが前に進むよう決定されるかどうかからスタートになると思うが、良いものに仕上げていっていただきたい。

◆会長

それでは、皆様から一通りご意見をいただいた中で、異議なしの発言をいただいた方もいたが、改めて、審議会として、この答申案の内容で決定したいと思うが、如何か。

<異議なし>

ありがとうございます。

それでは、本答申については、会議終了後、15時45分頃から教育長室にて、手交により提出を予定していると伺っているが、審議会を代表して、私が教育委員会に答申を行ってもよろしいか。この辺りもお任せいただいてもよろしいか。

<異議なし>

それでは、全ての議事がこれにて終了し、審議会は終了となるが、7回にわたる長期の議論に毎回参加いただき、誠にありがとうございました。

4 事務局長挨拶

5 閉会